

教えて!ドクター

池田先生

Q&A



外科部長 (消化管)  
池田 正視

## 胃を切った後の 代用胃による食生活

### Q 胃を切除した後は?

胃は、食物が通過しながら消化・吸収・排泄される器官である消化管という道の一部です。「胃袋」と言われるように、1回の食事で、多くの食物を摂取して貯めることができる(貯留能)袋状の臓器です。私たちは胃のおかげで、1日3回の食事で済み、かつ美味しく楽しむことができます。

胃がんなどの治療で、胃を切除しなければならない場合、消化管が分断されることになるため、その間の経路を作りなおす(再建する)必要があります。ほとんどの医療機関で行われているルーワイやビルロートという再建の方法は、実は100年以上前から行われているような簡単な方法であり、失った貯留能は再現されず、1回の食事量は大幅に減ってしまいます。そればかりか、逆流感があったり、食後に腹痛や動悸が出たり、冷や汗や失神を起こしたり、様々な症状(胃切除後障害)が出現することがあります。

せっかく胃がんは治っても、胃切除後障害により術後の生活の質(QOL)が大きく落ちてしまっている方は少なくありません。

### Q 代用胃とは?

代用胃は、当院で行っている代表的な再建法です。文字通り、生来の胃袋の代わりとなるような、胃と同様の貯留能を持つ袋のことです。代用胃と言っても人工の異物を用いて作製する訳ではなく、ご自身の2~3mある小腸(胃と大腸の間にある消化管)の一部(15~20cm)を使って袋状に作り替えたものです(図1)。

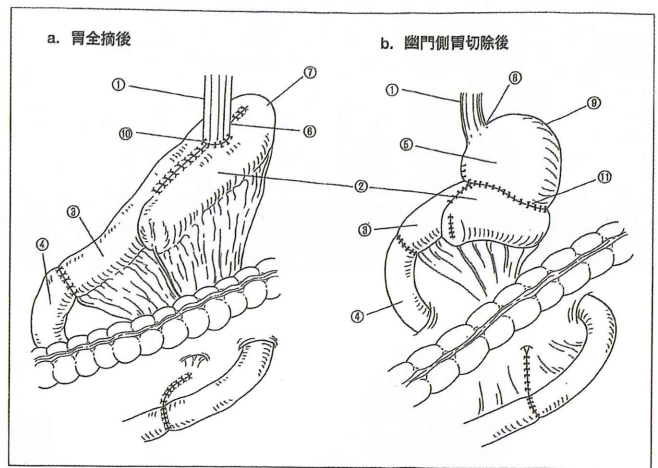


図1 胃全摘後および幽門切除後パウチ間置術模式図  
①食道、②パウチ、③腸管、④十二指腸、⑤残胃、⑥His角、⑦pseudo-fornix、⑧His角、⑨fornix、⑩double stapling technique、⑪triangulating stapling technique

### Q 代用胃で胃切除後障害は?

当院では、胃切除後障害に悩まれる患者様に対して、ペガサスという胃切除後のQOL評価票を用い、一人一人の固有の症状を拾い出し、それらに見合った対応策を医師、栄養士、薬剤師で指導する「胃切除後障害外来」を第2・第4木曜日午後に予約制で行っております。このペガサス評価票で、全国で行われた前述の再建法と当院で行った代用胃による再建法を比較してみる(図2)と、代用胃の果たしている効果がよく分かります。代用胃という再建法によって、胃がんを治すだけでなく、手術後に以前と変わらない食生活を楽しくで頂ければと考えております。今後にも胃の手術が必要である方や、手術後に食生活や症状で悩まれている方などいらっしゃいましたら、お気軽にご相談下さい。

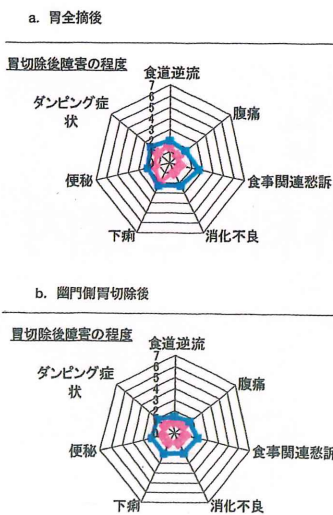


図2 ペガサス評価票による胃切除後に代用胃を作製された患者様(ピンク色)と全国の通常の再建法の患者様(青色)との比較  
a. 胃全摘後  
b. 幽門側胃切除後  
(症状が少ないと点数が低い。)

胃切除後障害  
でお悩みの方ご相談ください

外科外来

第2・4木 午後(要予約)

池田医師